

住宅用分電盤 施工説明書

この説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
安全に関するご注意

⚠ 警告

- 相線式 (1φ2W、1φ3W) ・回路電圧に合わせて選んでください。
感電事故の防止ができません。
- ねじ締付け・電線選定は説明書にしたがってください。
火災になる恐れがあります。

⚠ 注意

- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。
- 単3中性線欠相保護付漏電遮断器の過電圧検出リード線は、必ず中性バーに接続してください。
異常電圧が発生し電気器具を損傷する恐れがあります。
- 有資格者以外の電気工事は、法律で禁止されていますので絶対行わないでください。

施工上のご注意

■施工に関するご注意

- 住宅用分電盤は相線式 (1φ2W、1φ3W) ・回路電圧に合わせて選んでください。
回路方式 ・単相2線式 (1φ2W) 100V
・単相3線式 (1φ3W) 100/200V
- 主幹ブレーカに電源を接続する場合は、各相を正しく接続してください。
相を間違えると異常電圧が発生します。
- 盤定格電流を越える主幹ブレーカは取付けないでください。

- 導電部の接続ねじは、右表の適正締付けトルク範囲内で確実に締付けてください。
- 導電部の接続ねじは、増締めを行ってください。
- 電線サイズは最大想定負荷電流に適合したものを使用してください。
- 主幹ブレーカ、分岐ブレーカに接続する電線サイズは右表より選んでください。
- 分岐ブレーカには単線2本を接続しないでください。
- 圧着端子・圧着工具はJISマーク品を使用してください。
- 電線に適合した圧着端子を使用してください。
- 主幹ブレーカ2次側端子からの臨時配線、及びフリースペースからの仮配線は行わないでください。
- 単3中性線欠相保護付漏電遮断器の過電圧検出リード線は、必ず中性バーに接続してください。
接続しないと、欠相した場合に、電気器具を保護できません。
- 分電盤カバー等は、取り付け後、軽く引いて外れないことを確認してください。

ねじの呼び径	締付けトルクN・m
M4	1.2～1.6
M5	1.6～2.0
M6	3.0～4.0
M8	5.5～7.0

備考：機器端子M5圧着方式の場合は
2.0～2.5N・m

主幹・分岐 ブレーカの定格電流	電線サイズ
20 A	φ1.6、φ2.0
30 A	φ2.6、5.5～8.0mm ²
40 A	8.0～14.0mm ²
50 A・60 A	14.0～22.0mm ²
75 A	22.0～38.0mm ²
100 A	38.0mm ²

主幹ブレーカ・分岐ブレーカ推奨電線サイズ

東芝ライテック株式会社

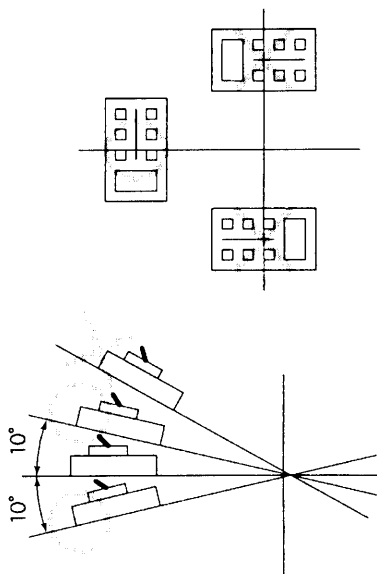
電材機器部

〒140-8660 東京都品川区南品川2-2-13 (南品川JNビル)
お客様相談センター TEL.0120-66-1048
ホームページアドレス <http://www.tlt.co.jp>

施工上のご注意

■設置に関するご注意

- 住宅用分電盤は、容易に操作・点検のできる場所に取付けてください。
戸棚・便所・浴室などの内部には取付けしないでください。
- 高温・多湿・じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃など異常な環境での使用は避けてください。
機能を損ないます。
- 屋内で使用してください。
屋外や雨のかかる場所には使用できません。
- 分電盤ベース寸法より上下に各20mm以上、左右に各35mm以上のスペースを確保してください。
- 分電盤は天井面、周囲の造営材・設備品他と10mm以上離して取付けてください。
- ベースやカバーに歪が発生しやすと正常な取付け状態が維持できないことがあります。
- 住宅用分電盤を取付ける壁面は、平らな面を選んでください。
凸凹のある場所へ無理に取付けしないでください。
- 住宅用分電盤は、下記図中に示す範囲内で使用してください。



側面から見た場合

正面から見た場合

- 住宅用分電盤の前には、障害になるようなものを置かないでください。

■使用上のご注意

- 分岐回路を200Vで使用するときは、必ず2P2Eの分岐ブレーカを使用してください。
分岐回路を200Vに切替える場合は、商品に貼付け又は添付している説明書通りに行ってください。
- また、200Vに切替えた場合は、必ず200Vの表示をしてください。
- 線間の絶縁抵抗測定は漏電遮断器が故障します。
- 不要な動作を防ぐため、商品に表示してある主幹ブレーカ定格電流の80%以内でのご使用をお奨めします。

お願い

- 工事が終わったら、商品に同梱してある取扱説明書に施工電気事業者名（指定がある場合は連絡先）をご記入の後、お客様に取扱方法を説明し、お渡しください。

取扱方法

■配線工事方法

- ベースの配線孔に合わせて壁に穴をあけてください。（付属の型紙を使用することにより、壁の配線孔位置が簡単にけがけがけます。）
- 下段の分岐ブレーカへの接続は、分岐ブレーカ裏配線スペースを通しての施工も可能です。
- 内部機器は一括して取り外すことができます。

■施工に関するご注意

- 定格電流30Aの単3JIS互換性形漏電ブレーカは中性極が2本ねじとなっております。
中性極のみ電線のストリップ寸法が長くなっていきます。漏電ブレーカに表示してあるストリップゲージを参考に被覆をむいてください。（中性極20mm、電圧極12mm）
端子ねじの締付けは、奥のねじを先に締め、上下を交互に反復締付けを行ってください。
 - 絶縁カバーを取外す際は、感電、短絡のおそれがありますので、主幹ブレーカを「OFF」にしてください。
- ### ■清掃について
- パネルの清掃は乾布で行ってください。
 - シンナー・ベンジンなどの薬品は、樹脂表面がおかされることがありますので使用しないでください。
 - パネル内部の清掃は、感電するおそれがありますので、絶対に行わないでください。

■扉の開閉方式(扉付き機種のみ)

- 扉を開ける場合は、扉下部中央付近のボタンの下部を押してください。

■使用上のご注意

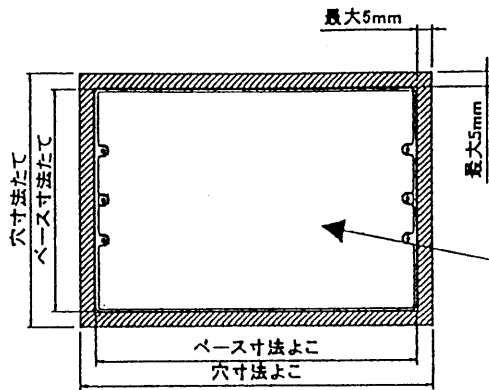
- 漏電ブレーカ付きの製品は、工事終了後、必ずテストボタンを押して正常に動作することを確認してください。
- 線間の絶縁抵抗測定はできません。漏電遮断器が故障します。
- 主幹ブレーカが単3中性線欠相保護付きの製品は、電路と大地間の絶縁抵抗測定の際は、中性バーから過電圧検出リード線を取外して行ってください。測定後は必ず中性バーに過電圧検出リード線を接続してください。
- 温度・湿度の高い場所、じんあい、腐食性ガスの多い場所、衝撃振動の激しい場所では使用しないでください。
- プレーカなどの導電部締め付けねじが輸送中の振動によりゆるみを生じているおそれがありますので、工事終了後及び点検時には必ず増締めを行ってください。

東芝埋込形住宅用分電盤取付工事説明書

お買いあげいただきましてありがとうございました。
 この分電盤は木質系壁構造専用の埋込形です。 ※コンクリート系壁構造には取付けできません。
 分電盤の取付けにつきましては、下記の点にご注意して、正しく施工して下さい。

1. 壁面の穴開け寸法について

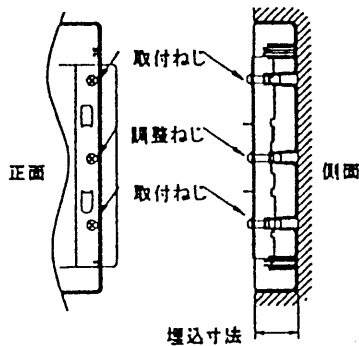
図1



ベース寸法より上下左右に各5mmまでの穴開け加工をしてください。
 カバー取付時に最大上下11mmずつ、左右22mmずつ穴あき部をかくせます。

分電盤ベース寸法 よこ×たて	穴開け寸法の目安 よこ×たて
375×308	385×318
445×308	455×318
515×308	525×318

図2



①ベースの埋込寸法が58mmを超える場合は付属の取付・調整ねじに交換してください。

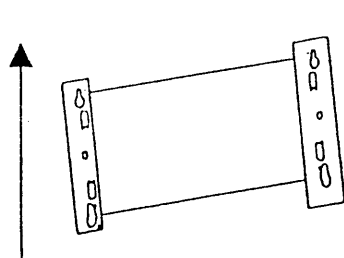
ベース埋込寸法	取付ねじ
48mm～58mm	M5×30
58mm～78mm	M5×50(付属のねじ)

②取付ねじだけでは壁面に対し内部機器の支えが弱く、カバーがうまく取付けられない場合があります。その場合は、調整ねじで内部機器を支えてください。

ベース埋込寸法	調整ねじ
48mm～58mm	M5×30
58mm～78mm	M5×50(付属のねじ)

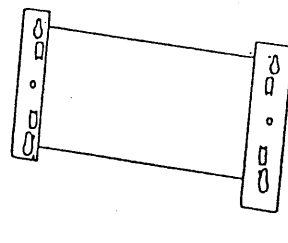
3. 内部機器の角度調整について

図3



内部機器が左下がりの場合
 内部機器の左側を持ち上げ
 ながら取付ねじを締めて
 ください。

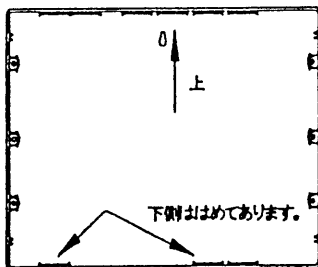
図4



内部機器が右下がりの場合
 内部機器の右側を持ち上げ
 ながら取付ねじを締めて
 ください。

4. 配線穴プッシュについて

図5



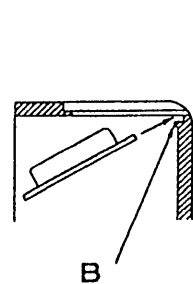
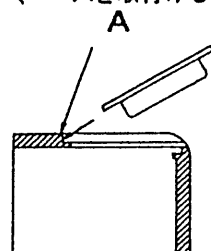
上側側面のプッシュは同梱してあります。
 下側側面の配線穴はふさいであります。

電線の引き回し順序に応じて配線穴をふさいでください。

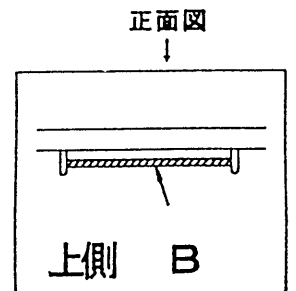
a. 電線をベース通してから
 配線穴をふさぐ場合
 (ベースを取付ける前)

図6

b. ベースを取付てから
 電線を通して配線穴をふさぐ場合
 (ベースを取付けた後)



側断面図
 ← 正面図



※A部凹部にカドを合わせて
 押し込んでください。

※B部凸部より側面側にカドを
 合わせて押し込んでください。